

カサゴの種苗生産(仕込み)の話!

カサゴ(アラカブ)は雌雄異体で、雄は交接突起を持ち9~11月にかけて雄が先に成熟して交尾を行い、雌は体内で卵と精子が融合、受精し、12~3月にかけて仔魚を産出する卵胎生魚種です。1尾の雌が1回で産出する仔魚は1~4万尾程度、1シーズンで3~4回産出すると云われています。

では、種苗生産を開始する時、当センターではどのように仔魚を調達するのでしょうか。

結論から述べますと、種苗生産を始める水槽に雌親魚を收容し、そこで仔魚を産出させる手法をとっています。簡単にその方法を紹介します。

まず、12月になったら親魚水槽での親魚の腹部状況、産出仔魚の数量を毎日観察していきます。腹部の膨らんだ雌親魚が多く、産出仔魚数も増加しだしたら種苗生産水槽を準備します。種苗生産水槽には親魚收容用のプラスチック製籠(29×39×56cm)を数個セットします。親魚水槽から腹部の膨らんだ雌を1尾ずつ確認して取り揚げ、準備した籠に收容していきます。1籠当たり5~6尾を收容し、收容後、種苗生産水槽水面下1m付近に垂下します。(平成13年度は9籠(54尾の雌親魚)を種苗生産水槽に垂下しました。)目標仔魚数に達するまで、この籠は垂下させます。仔魚の尾数確認は、夜間に行う計数から算出します。その方法は、塩化ビニール製



写真：腹部の膨れた産仔間近の雌親魚(H14.1.7)

採取管(口径30mm,長さ2.5m)により飼育水を10点採取し、その水量と採取尾数から換算します。この作業は、目標尾数に達するまで毎晩行います。目標尾数に達した時点で、親魚收容籠を取り揚げ、雌親魚は親魚水槽へ戻します。~までの間、通常数日かかる事が多いのですが、先発して産出された仔魚は既に開口しているため、仔魚を確認した日から餌となるワムシを給餌していきます。

今年は、平成14年1月7日に~を行い、1月9日にの作業をし、本格的な種苗生産を開始しました。順調に推移すれば、この号が発刊される頃は種苗出荷の時期と思われます。これまでの種苗出荷実績(表)では、年により種苗生産が安定せず、出荷量に変動がありました。今回は出荷作業に追われていること(要望数量達成)を願って締めくりたいと思います。(栽培漁業センター 脇田)

表 - カサゴ種苗出荷関係実績

鹿児島県栽培漁業センター

年	5	6	7	8	9	10	11	12	13	合計	14要望
期間	4/23 ~ 4/30	4/5 ~ 12/9	4/24 ~ 9/21	5/15 ~ 8/29	4/25 ~ 7/9	6/18 ~ 7/24	6/3 ~ 7/23	6/15 ~ 7/27	4/17 ~ 8/7		
尾数(千尾)	61	114	102	117	71	35	69	47	132	748	123
サイズ(mm)	36 ~ 39	30 ~ 100	34 ~ 39	45 ~ 80	43 ~ 72	47 ~ 53	49 ~ 63	30 ~ 60	40 ~ 90		
出荷籠所数	3	12	9	11	11	5	12	11	11		10